

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400138		
法人名	(株)メデカジャパン		
事業所名	出雲ケアセンターそよ風 (夕凧ユニット)		
所在地	島根県出雲市今市町876-9		
自己評価作成日	平成22年8月10日	評価結果市町村受理日	平成22年9月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou-c.fukushi-shimane.or.jp/kaigosip/JigyosyoBasicPub">http://kouhyou-c.fukushi-shimane.or.jp/kaigosip/JigyosyoBasicPub</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1YNT第10ビル111		
訪問調査日	平成22年8月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

立地条件に恵まれており、駅や商店街、スーパーからも近い。また、入居者の半数が今市町で生活をしてこられた方である為、生活習慣の継続や馴染みの店、人との関係が継続出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR出雲市駅の近くにあり、デイサービス・ショートステイ・居宅介護支援事業所を併設している。GHは3階部分にあり、ゆったりと明るい空間で、利用者方の表情も落ち着いている。経営母体は全国展開しているメデカジャパンであるが、事業所独自の色を出しながら運営され、現場職員も情熱をもって取り組んでいる。利便性が良く、近くに小さな商店が色々あるので、買物に出かける等、地域に密着した生活を維持していく事が出来ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体朝礼時には基本理念を唱和し、グループホーム朝礼時には独自の理念を職員全員で唱和している。理念を基としたサービスの提供に取り組んでいる。	全体としての基本理念、介護サービスの基本方針、品質方針の他にグループホームとしての理念を作り、朝礼時に唱和する等で共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩や買い物時に顔馴染みの方と話をしたり、地域の催し物等には積極的に参加し、交流が出来ている。	買物や理美容等、近くのお店を日常的に利用している。自治会にも入り、総会等にも出席している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において説明をし、家族や地域の方の理解を得るよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの内容、利用者の様子等報告している。又、会議での意見・提案を参考にし、サービス向上のために取り組んでいる。	毎回、自治会からは会長の出席があり、定着してきている。自治会の行事等にも出席する計画がある。地域の消防団への協力要請もしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要な時には担当者と連絡を取って相談を行っている。	運営推進会議には市からも毎回出席してもらい、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に理解を深め防止に努めている。職員間でカンファレンスを行い、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	グループホームは3階部分にあり、エレベーターの利用は殆んど職員が家族と一緒にである。2ユニット間は自由に行き来ができる。言葉での拘束等も見られない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、全職員で学びを共有している。職員一人一人が注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会はない。現在、成年後見制度に該当する方はおられない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には本人・家族にきちんと理解・納得していただけるよう説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々利用者の意見・不満を傾聴し、ケアに反映させている。グループホーム玄関に意見箱を設置し、運営に反映させている。	家族の面会時に聞き取りするようにしている。4月からサービス担当者会議には、家族にも出席してもらうようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月事業所全体の会議、グループホーム会議を行い、聞く機会を設け反映させている。	毎月のグループホーム会議では、職員の意見もよく出ている。組織上の事もあり、管理者からセンター長、その次に支社長とあげていくため早急な反映は難しい時もあるが、事案によって検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の努力を認め、向上心を持って働けるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月事業所全体で勉強会を行っている。職場外での研修にも可能な限り参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出雲市グループホーム連絡協議会に参加し、他事業所との連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人・家族に会い、生活状況や今までの暮らし等聞く機会を持っている。家族と気軽に見学に来ていただいたり、他利用者との関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族が困っていること、不安なことを聞き信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族にとって必要なサービスを多方面から検討し、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理、掃除等出来る限り利用者と一緒にいき、介護する者・される者という関係ではなく、支え合い生活している。日々利用者から沢山のことを学んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会を立ち上げたり、面会時等家族の思いを聞き、一緒に考えていけるよう声を掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得、馴染みの方との交流が継続できるよう努めている。	この夏のお盆に、お墓参りに同伴した。その時の良い表情の写真が飾られていた。又、お茶の先生をしておられた方ところに、お弟子さんが訪問されたりもしている。近隣からの入居者が多く、地元の馴染みの商店の利用を支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いに交流が図れるよう職員が間に入り支援している。利用者同士で頼りにしたり、支え合う場面も多々ある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在該当はない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から本人の思いを聞き、その意向にそえる努力をしている。本人の意向把握が困難な場合には、表情・しぐさから読み取ったり、家族から意向を得て把握している。	一人ひとりの希望や意向については、良く聞き取りをし、それぞれの方に添ったケアが出来る様に取り組まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に聞き取り調査を行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の介護記録、職員間での申し送りを行い、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く生活できるように職員間でモニタリング・カンファレンスをし、本人・家族・必要であれば主治医も含めた意見交換をし、その上で介護計画を作成している。	グループホーム会議でケアプランカンファレンスを行い、サービス担当者会議で家族へ説明し、作成されたプランは3ヶ月毎に見直しをしている。	担当者会議に家族に出席してもらうようにされたが、家族の話を聴き希望や意見を取り入れてプランを立案し、より丁寧な説明への努力を継続されたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人一人の介護記録・申し送りノート・カンファレンスノート等を活用し、情報を共有している。介護記録は発した言葉・表情・しぐさ等を特に大切に、ケアの実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設するデイサービスの行事に参加し交流を図ったり、通院時の送迎など、必要な支援は柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中で豊かな暮らしができるよう、関係機関等に協力・支援をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を尊重し、入居前のかかりつけ医を継続して往診・受診していただけるよう支援している。	委託医の往診は2週間に1回、薬は駅前の薬局が届けてくれる。訪問看護は隔週で、平田地区から来訪する。入居前からのかかりつけ医での受診支援もされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問看護を受け、日々の状態や気づきを伝え、相談している。急変時にはショートステイ・デイサービスの看護師とも連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が早期に退院できるよう病院・家族と情報交換を行っている。退院後も安心・安全に過ごせるよう連携が保てている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意見を尊重し、職員と本人・家族・主治医も含めた話し合いを行い、対応している。	法人としての方針ではターミナルケアに積極的であると見られるが、医療行為が必要な場合、訪問看護では対応しきれないこともあり、現状では十分な対応が難しい。	ホームで現状対応し得る最大限のケアの説明、本人や家族の意志確認、職員の研修等、早急にやるべき課題はあると思われる。まずは、グループホームとしての具体的な指針を確立する事が必要ではないでしょうか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救命救急法を取得し、実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に一回防災訓練を実施している。事業所全体の勉強会で火災に関しての施設設備も勉強している。	年2回の訓練(夜間想定も含む)が、消防署からの指導を受け実施されている。備蓄は、水と食糧が用意されていた。	グループホームが3階という事もあり、地域住民の協力は必要不可欠であると思われる。また、相互での助け合いの提示も含め、地域との協力体制の構築の努力を継続されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録物の取り扱いに注意し、適正に取り扱っている。又、利用者個々に合った声掛け・関わりを行い、対応している。	一人ひとりの状態に合わせたさり気ないケア、また利用者を尊重した言葉かけがなされていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で出来る限り自分の希望や思いを表出していただけるよう、水分補給時の飲み物・散歩の行き先等日常的に自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切にし、利用者の体調・思い・その日の天候で希望にそった支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を第一に、体調・季節に応じた身だしなみに配慮している。又、散髪は近所の理・美容室より出張してもらえよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の身体状況に応じて、調理作業を行っていただいている。難しい方には食事の片づけ・テーブル拭き・献立作りへの参加をしていただいている。	一方のユニットでは介護度の高い利用者が多く食事に関して手伝える場面は少なかった。2ユニットで1人の職員が検食しており、他の職員は介助に回っており、食事場面は落ち着いて静かであった。食事はとても美味しく利用者も完食されていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	魚・野菜を中心にメリハリのある献立に工夫し、一人一人の嚥下・咀嚼能力に合った食事形態にしている。摂取量をチェックし、少ない方には本人・家族へ嗜好品を聞き提供したり、ゼリー・栄養補助食品で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人の能力に応じた口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターン・排泄回数・量・タイミングを把握し、不快感なく過ごせるよう支援している。	排泄パターン表が食堂に置いてあり、常に職員が把握し、さり気なく排泄誘導がされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	魚・野菜・果物を中心とした食事を提供し、水分摂取量に注意しデータをとっている。又、ホール内を散歩したり、主治医と相談し薬の調整を行い、便秘による不快感なく過ごせるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望や習慣に合わせて実施し、入浴剤を使用する等して、入浴を楽しんでいただいている。	希望に応じて、午後や夕方等に入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や状況に応じ、安心して眠っていただけるよう支援している。日中は体操やレク・茶話会等に積極的に参加していただき、安眠を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬状況・目的・副作用等各自個人記録にファイルし、全職員が周知している。誤薬防止のため、服薬時は職員二人で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴を把握し、役割を持っていただけるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望時や帰宅願望等の不穩時、随時外出している。又、家族会主催で遠方へも外出している。	半年に1回は、ほぼ全員で遠方への外出行事を行っている。日常的には、理美容院の利用や食材の買物等に職員と出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自己管理されている方はいないが、本人が購入したいものがある場合、すぐ使えるよう管理者が管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時は自ら電話をし、会話を楽しんでいただいたり、家族と手紙のやりとりが出来るよう代筆し、支援している。携帯電話を所持している方もおられ、自由に会話をされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール・廊下の壁にアートをし、季節感を工夫したり、写真を貼り、見て楽しめる心地よい空間作りに努めている。	台所・食堂・浴室・トイレ等、何れも綺麗に整えられ明るく広々とした感じであった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファスペースがあり、気の合った方同士お話ができるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い馴染んだ家具・仏壇等持ってきてもらい、混乱なく心地よく過ごせるよう工夫している。	仏壇を持ち込まれて花や水などの世話をされている方や、家の表札を部屋の入り口に掛けられている方等、落ち着いて過せるよう配慮されていた。各居室の入り口に行事等での本人の写真が飾られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールの見えやすい場所に時計・カレンダーがある。トイレや居室のネームプレート下に本人の写真を飾ったり目印をし、安心に自立した生活が送れるよう工夫している。		